

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第73回 2024年6月)



大阪にあるカップヌードルミュージアムを訪ねた。ここに来るのは初めてである。子どものころからチキンラーメンを始めとする日清食品のインスタント食品になじんできた食いしん防にとって、1度は行ってみたい場所だった。

チキンラーメンやカップヌードルを発明したのは、NHKの朝ドラ「まんぼう」のモデルになった安藤百福。戦後の食糧難時代に、「安くて手軽に食べてもらえる」ようなインスタントラーメンを作り出し、日本人の食生活を変えた偉人である。食いしん防はチキンラーメン、今でも大好きだ。

カップヌードルは、海外にも売れるようにと百福が考え出した。パッケージと食器が一体化し、お湯を注ぐだけで食べられる手軽さで大ヒット。今や世界100か国で累計500憶売れた人気食品だ。日本から生まれた発明品ランキングでも、ウォークマンなどを抑えて堂々の1位に君臨している。

発売当時は、価格が袋ラーメンの4倍ほどしたため、売れ行きが懸念されたそう。しかし、日清以外のメーカーも含めたカップ麺の売上は、袋麺をはるかにしのぐ。

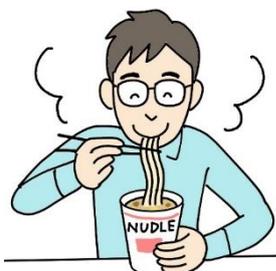
でもねえ……。ひねくれ者の食いしん防は、「スゴイね」と素直に感心できないのだ。だって、袋麺に較べて圧倒的にゴミの量が多い。1食のためにあんな大量のゴミを出してもいいのか、と悩む。

カップ麺だけではない。食品トレーもペットボトルも、子どものころにはなかった。これらは確かに便利だが、みんなゴミになる点が共通している。リサイクルするにしても、膨大なエネルギーと手間がかかるのだ。カップヌードルは、こんな《使い捨て文化》の先駆けになったともいえる。



と言いつつ、食いしん防はカップ麺をよく食べる(カレーヌードルとマルタイ食品のちゃんぽんがお気に入り)し、ペットボトル飲料も愛飲する。人間の大きい矛盾ですな。もうガラス瓶や紙包み(昔、八百屋や果物屋で買物すると、商品を新聞紙でくるんでくれた)の時代には戻れないのだろうか。仮に戻ったとしても、食いしん防は耐えられる自信があるのだが。

ちなみに冒頭のミュージアムで、マイカップヌードルを作った。スープはもちろんカレー。3種類選べる具は、ガーリックチップとキムチとひよこちゃんナルト。容器には自分で絵を描く。世界に一つだけの“自分好みにチューンアップされたカップ麺”だ。いざ食べてみると……うーん、正直言って、市販の組み合わせには及ばなかった……



勝手にQ&Aコーナー

Q：まちづくり推進員は何ををするのですか？

A：ど真ん中ストレートの質問ですな。廃食油回収や夏まつり、ふるさとまつりなど地区全体にかかる事業のお手伝いをさせていただくほか、TOPICS にあるように部会・プロジェクトのサポーターになっていただきます。小杉“モーフィアス”前部会長も、小堀“ナイスガイ”現部長も、推進員のサポーターから部会に入ってくれたのです！

Q：勝堂町の講座に参加してました。あのとき来たのは食いしん防だったのですね。話の内容はともかく、最初にとんできたギャグがあまりにもつまらなくて引いてしまいました。

A：「話がつまらなくても腐ったトマトや卵を投げないで。どうしても投げたくなったらお金を……」と言ったやつですな。会場が静まり返った（凍りついた）のを覚えてます。「お金」が直接すぎたかな。「おひねり」と言った方が……え？ そういう問題じゃないって!?



楽しい質問、お待ちしております！

(文責：こじまっちょ)